

「手立て一覧表」の中で、分かりづらいと思われる手立てについて、事例を紹介します。

B

自ら考える

ステップ②へ進みたい方に、おすすめの手立て(例)

k 児童によって解釈が分かれる発問をすることで、根拠や理由を考えることができるようにする。



「ごんぎつね」のごんは、最後の場面でどのような気持ちだったと思いますか。
本文の言葉を使って、その理由も教えてください。

叙述を根拠とする

悔しかったと思うな。「兵十のかげぼうしをふみふみ」という言葉から、ごんは、兵十と仲良くなりたいたいと思っていたのが分かる。それなのに、「火なわじゅう」で打たれるなんて、悔しいはずだよ。



そうかな。僕は、満足だったと思う。だって、くりや松たけを渡していることを兵十に気付いてもらえず、「へえ、これはつまらないな」「おれは、引き合わないなあ」と言っていたでしょう。分かってもらえて嬉しかったと思うよ。

児童が考えを広げたり、深めたりするために、交流する相手に変化をもたせることも有効です。

〈例〉

- ・①同じ考えの友達と → ②異なる考えの友達と
- ・①同じ叙述を根拠とする友達と → ②異なる叙述を根拠とする友達と

l 学習する内容や相手等について、児童が自ら決めたり選んだりする場を設けることで、積極性につなげる。



「理由を付けて話す」「分からないことには質問をする」、「似た考えは1つにまとめる」という3つの技を使って、バス旅行での決まりについて、話し合います。それぞれの技の練習で、どの決まりについて話し合うといいですか。

- バスの中で行うあそび
- 工場見学のときのやくそく
- グループのめあて
- ・
- ・
- ・

グループで話し合う内容
(バス旅行での決まり)



「似た考えは1つにまとめる」技は、「バスの中で行うあそび」について話し合う練習にぴったりだと思うな。

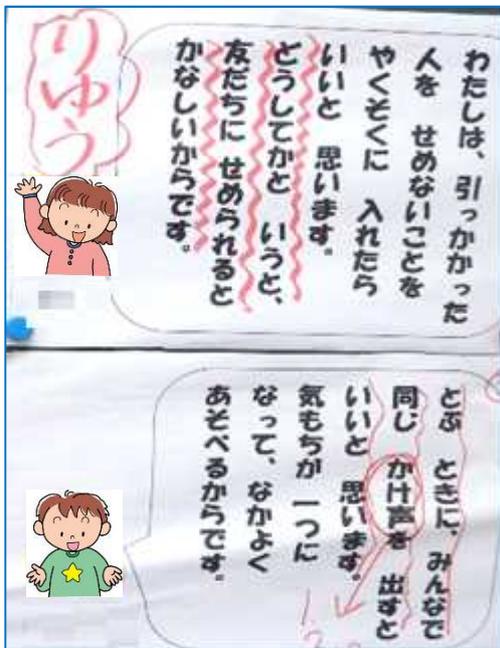
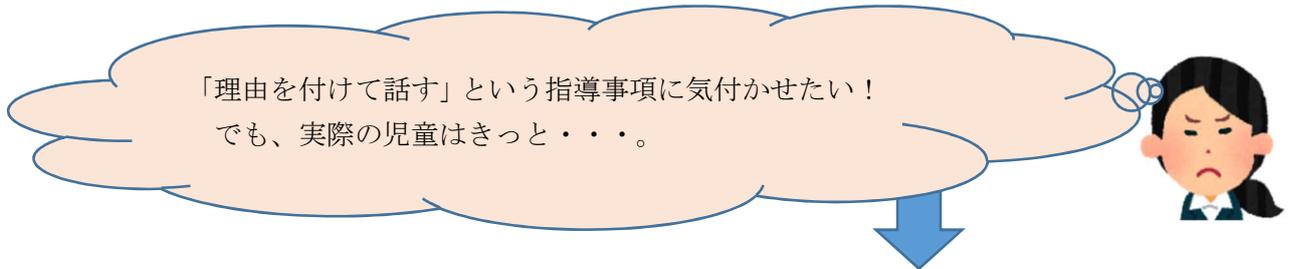
なるほど。確かに、みんなで遊ぶときは、いつも似たようなルールでもめて、困っているよね。



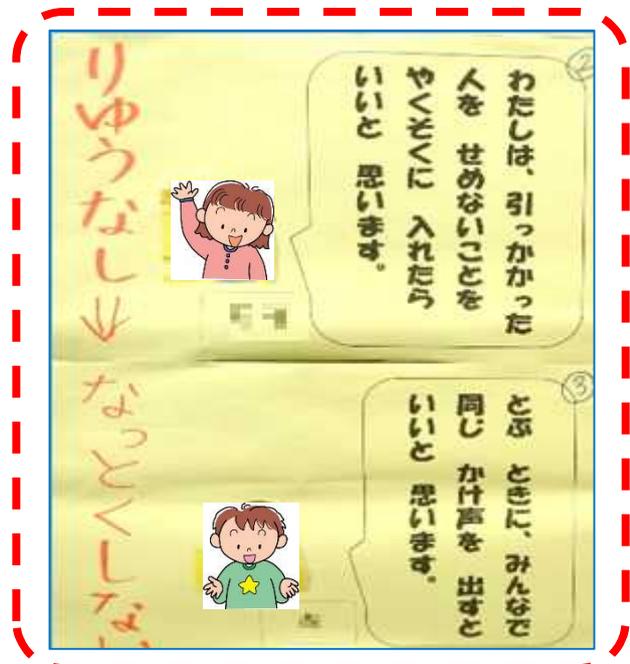
h' モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようになる。

(例) 児童がつまずきそうな場面をあえて示すことで、身に付けるべき力に気付けるようになる場合 (話すこと・聞くこと)

予想されるつまずきを含む、改善の余地が残る例を教師が自作します。教科書などの良質なモデルと比較させることで、児童が身に付けるべき力に気付けるようにします。



教科書に掲載された話し方のモデル



児童がつまずくであろう話し方の例 (教師自作)



きちんと理由を付けて話すと、考えていることが相手に伝わって便利だな。こんなふうに、理由を付けて話したいな。

h' モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。

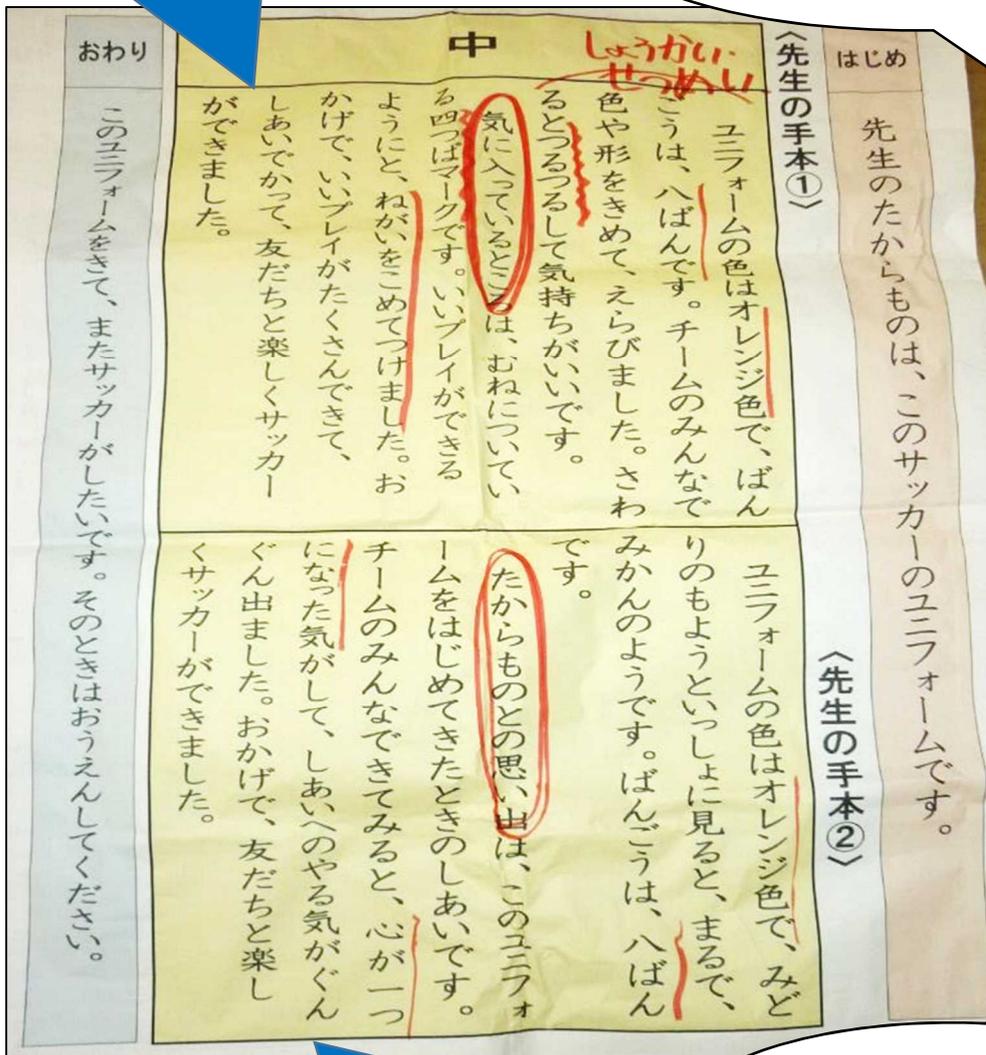
(例) 気付かせたいよさが複数あるモデルを提示することで、身に付けるべき力に気付けるようにする場合 (話すこと・聞くこと)

よさごとに教師がモデルを作成します。モデルを比較することで、それぞれのよさに気付かせることができると考えます。下の写真は、宝物を紹介するスピーチ原稿のモデルです。

〈教師自作のモデル①のよさ〉

- ・手触り (五感)
- ・気に入っているところ、理由

野球のグローブを紹介したいから ごわごわした手触りに加えて、新品のにおいについても書けそうだな。



〈教師自作のモデル②のよさ〉

- ・「まるで～のよう」という比喻表現
- ・エピソード

宝物のハンカチは、転校した友達からもらった物だというエピソードを入れよう。

h' モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする。

(例) 児童の実態に応じ、教科書のモデルより簡単なモデルを提示することで、身に付けるべき力に気付けるようにする場合（書くこと）

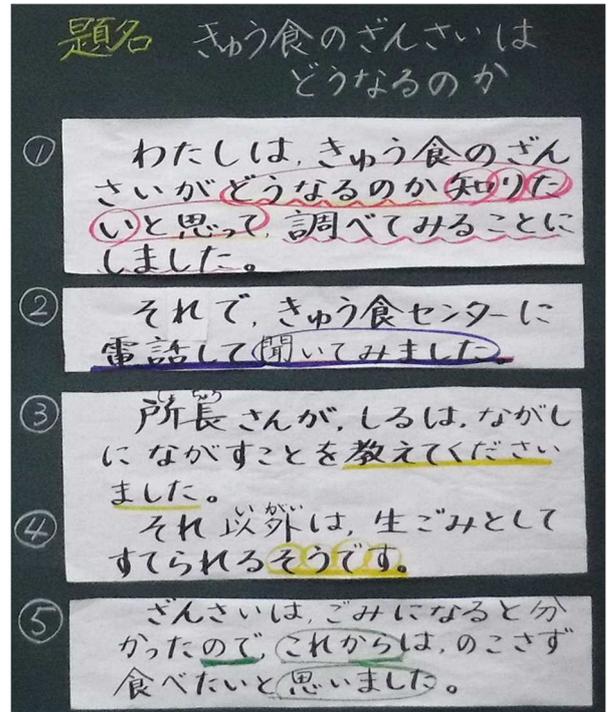


教科書のモデル文では、難しく感じる児童がいるだろうな。児童にとって、より身近な話題で、簡潔なモデル文を自作してみよう！

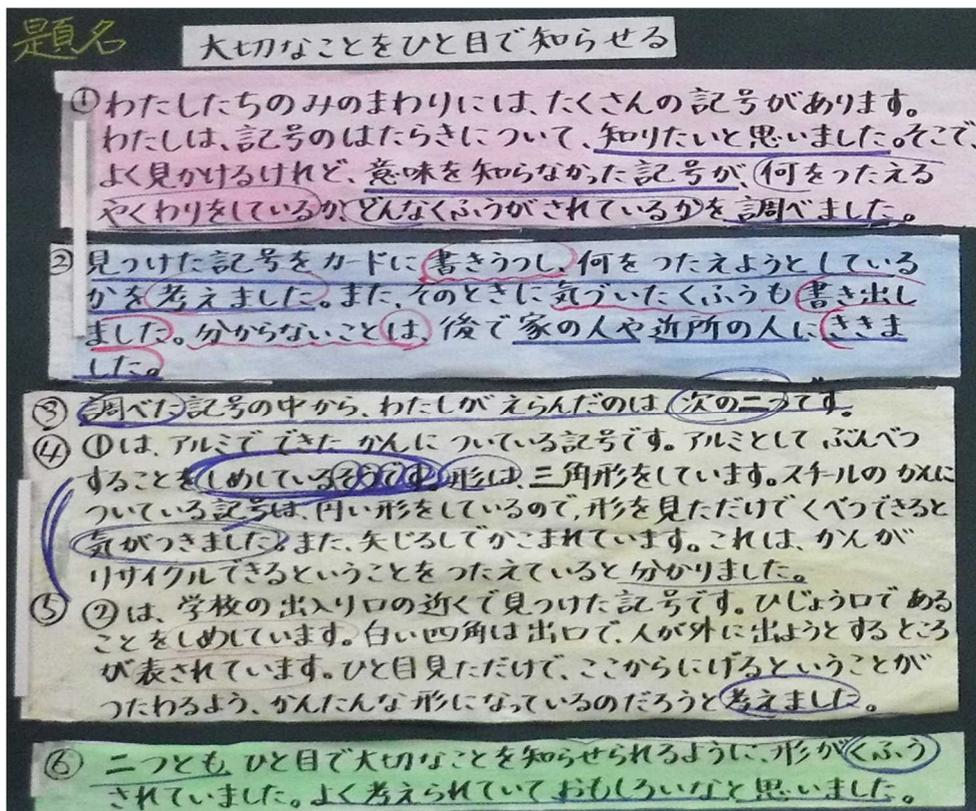
教師自作のモデル文を用いて、4つの構成の順序・意義について理解させた後、確認として教科書のモデル文を用いると効果的です。



あ！教科書でも、同じように4つの構成に分かれているよ！



教師自作のモデル文



教科書に掲載されているモデル文

n 板書やワークシートを工夫することで、考えを整理できるようにする。

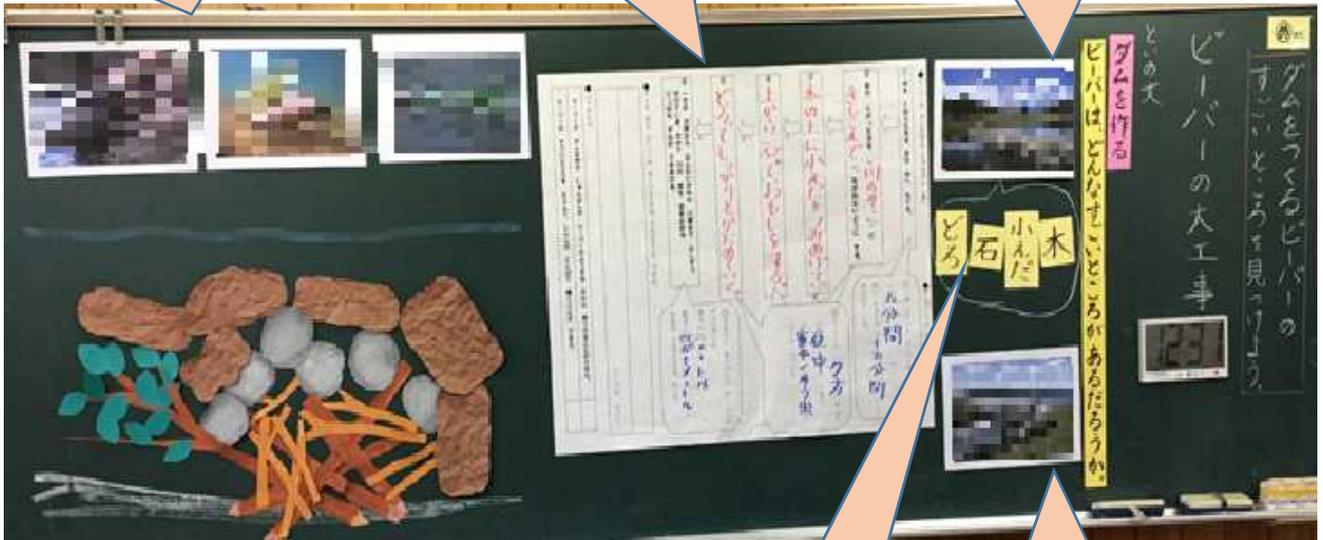
(例) 板書を工夫する場合 (読むこと) (「ビーバーの大工事」)

※掲示されている写真は、著作権に配慮して画像処理を施しています。

教科書に掲載されている写真

児童に配付するワークシートと同様の書式を拡大掲示

下の写真 (ダム) と対応する配置で撮影されたビーバーの巣



読み取った文章の理解を深めるために、教科書の言葉と対応させながら、児童が実際に操作して完成させたダムの模型

考える際の手掛かりとなるキーワードをカード化して貼付

児童になじみの薄いと思われるダム (人工物) の写真

木のとがった方を「さしこ」むんだね。どう動かすのかな。

次に、小枝を「積み上げ」るよ。たくさんの小枝を、上に重ねていくんだね。



その後、木と小枝の「上から石でおもしをして」…。だから、「水をせき止めるりっぱなダム」になるんだね。

B 自ら考える

ステップ③へ進みたい方に、おすすめの手立て(例)

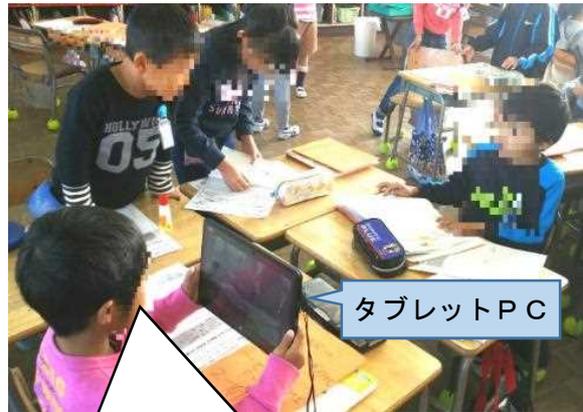
h' (モデルを提示することで、学習のゴールで身に付けるべき力に気付けるようにする) の具体例は、「ステップ②へ進みたい方に、おすすめの手立て(例)」に挙げています。

- 学習成果を中間発表として他者に披露させることで、互いのよさに気付けるようにする。

(例) タブレットPCを用いて、自分たちの発表のよさに気付かせる場合



「問題」と「答え」がきちんと合っていて、「です・ます」の丁寧な言葉も使っているよ。答えをもう少し詳しく書けるといいね。



しっかり相手を見てクイズを出すことができているね。声の大きさもちょうどいいよ。問題と答えの間はもっと間を取った方がいいよ。

○' 中間発表で他者から質問や助言を受ける場を設定することで、課題の解決に向けた再検討や修正を促す。

(例) 書いた文章を推敲する段階で、友達と見せ合う場合 (書くこと)

同じテーマの児童によるチェック

チェックすること	自分で チェック ○か△	同じ材料の友達 サイン () ○か△	ちがう材料の友達 サイン、 ○か△
① 大事なとーれい (くふう) (調理) (食品)	○	○	○
② つなぎ言葉を使う	○	○	○
③ 絵と文を合わせて	○	○	○
④ 文のあらは、いかに語で書く	○	○	○
⑤ (くふう) (調理) (食品) 手紙だらけは、同じくせいと書く	○	○	○
⑥ だんごのはじめは、つぎ	○	○	○

違うテーマの児童によるチェック

教師が指定したチェック項目 (新出の指導事項)

本人が設定したチェック項目 (既習の指導事項)